

賃貸不動産経営管理士協議会シンポジウム 後援 国土交通省

豊かな住生活の鍵を握る「次世代の賃貸住宅管理業」

少子高齢化の進展で既存住宅の利活用が進む中、不動産管理の重要性が増している。賃貸不動産管理の専門知識を有し、貸主と借主などに公正中立の立場からサポート業務を行うのが「賃貸不動産経営管理士」だ。その認定団体である賃貸不動産経営管理士協議会が先ごろ、「豊かな住生活の鍵を握る、次世代の賃貸住宅管理業」をテーマにシンポジウムを開催した。

主催者挨拶



賃貸不動産経営管理士協議会 会長 末永 照雄氏
日本賃貸住宅管理協会 会長

改正で、経営管理には一定の役割を担うことになる。このため、これまで年間5000人程度だった認定試験の受験者数が16年に1万3000人、17年は1万7000人と急増し、累計受験者数も5万人を突破した。認定試験の受験者数は、今後経営管理の国家資格化を目指し、努力を重ねていく。

来賓挨拶



国土交通省 土地・建設産業局長 田村 計氏

住宅管理業者により管理されている。賃貸住宅管理業者登録制度の改正が未だに防止され、賃貸士から貸主に対し重要事項説明を行うこととしており、試験の受験者数が増加することで業界全体の質の向上につながる。

基調講演



多文化共生のために「賃貸住宅」がキーになること

総研調査で外国人が増えることが不安があるかを聞いたところ、治りが悪く、外国人が増えるという回答が多かった。しかし、警察庁統計では外国人の犯罪件数は減少しており、外国人はほとんどが交流型で入居する。賃貸住宅は、日本社会全体の多様性を豊かにする上で重要な役割を担っている。また、外国人の増加は、賃貸住宅市場の活性化にもつながる。

外国人対応は社会のメルクマール

外国人が悪いのではなく、マナーが悪いのが問題。日本人の寛容度を測るべく、寛容度が高い人は、外国人への対応は、その社会のメルクマールと考へるべきだ。



「次世代の賃貸住宅管理業」をテーマにしたシンポジウム。会場には多くの参加者が集まり、熱い議論が交わされた。

主催者挨拶



賃貸不動産経営管理士協議会 会長 伊藤 博氏
日本賃貸住宅管理協会 会長

そのものは順に推移しているが、空き家については全国820万戸のうち賃貸住宅が約半数あるといわれている。昨年度の住宅単戸数の半分以上も賃貸あり、今後は地域によって供給過剰な地域も出てくる。

パネルディスカッション



豊かな賃貸ライフを実現する「次世代の賃貸住宅管理業」～賃貸不動産経営管理士が担う役割と将来像～



- (五十音順)
- パネリスト
スマサポ 代表取締役 小田 慎三氏
エスエストラスト 代表取締役 杉本 浩司氏
ハウスメイトパートナーズ 営業本部東京営業課長 谷 尚子氏
市属 代表取締役 西島 昭氏
苗加不動産 代表取締役 苗加 充彦氏
コーディネーター 上野 典行氏
プリンシパル住まい総研 所長

コストでデザイン性を高めることがD-I-Yには重要。上野 杉本さんD-I-Yを空室対策はリフォームの時間短縮が優先課題だが、空室の多いエリアでは画一化したりフォームにも二手間かけなければ差別化を図れない。低取り入れていく。杉本 社員も取り組んでいるが、顧客に任せるともあ

国家資格化を目指す経営管理士の役割

賃貸管理業をより社会の信頼が得られるようになることが重要だ。私が所属する団体は、賃貸不動産経営管理士の国家資格化と賃貸住宅管理業の環境整備について対応をすすめてきたことをここに報告する。本日シンポジウムへの参加、本当にありがとうございます。

閉会挨拶



賃貸不動産経営管理士協議会 副会長 原嶋 和利氏
全日本不動産協会 理事長

賃貸管理業をより社会の信頼が得られるようになることが重要だ。私が所属する団体は、賃貸不動産経営管理士の国家資格化と賃貸住宅管理業の環境整備について対応をすすめてきたことをここに報告する。本日シンポジウムへの参加、本当にありがとうございます。



シンポジウムの様子。各パネリストが自身の経験や見聞を語り、会場からは熱い議論が交わされた。